

茶病虫害防除情報

令和2年6月10日

【第8号】

鹿児島県経済連・肥料農業課

梅雨最盛期・夏茶の安定生産のための

二番茶後～三番茶芽生育期の病虫害防除対策

九州南部の梅雨入りが5月30日に発表され、概ね平年並みのようです。愈々雨の季節になりました。今年はこれからどのような梅雨気象になるかや新型コロナウイルス流行が気掛かりです。

二番茶の収穫は、各産地とも最盛期になってきました。二番茶後から三番茶芽生育期は高温・多雨・多湿の気象条件となり、病虫害の発生が多くなる時期です。今回は、二番茶摘採後から三番茶芽生育初期の病虫害防除対策についてお知らせします。

★ 病虫害の発生概要

二番茶は、降雨の中での摘採や整枝となる場所が多く、このため、「やぶきた」園では、**輪斑病**発生への恐れがあります。一番茶残葉への発生は少なく、6月の発生予察情報は「並」の予報ですが、気温の高い雨天日に摘採や整枝となる二番茶は感染しやすくなります。次に、三番茶芽生育初期は丁度梅雨の最盛期になると思われます。このため病害の発生が問題になり、「やぶきた」園などでは**炭疽病**の発生が多くなります。今年の一発茶期は降雨がやや少ない状況であったため伝染源となる摘採残病葉はやや少ない状態でしたが、今後降雨が平年並みか多い予想などから発生予察情報は「並」となっています。また、**黒葉腐病**も高温・多雨・多湿条件が続くこの時期に最も発生します。被覆園や炭疽病の防除を要しない「ゆたかみどり」などの品種園でも発生しやすいので注意します。この時期発生する害虫も全般に多くなりました。発生予察情報では**チャノミドリヒメヨコバイ**「やや多」、**チャノキイロアザミウマ**「やや少」、**チャノホリガ**「並」の予報です。特に梅雨明けになる三番茶芽生育後半は晴天になると思われるのでチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生は多くなり、被害をうける恐れがあります。その他、**コクモンハマキ**「並」、**チャハマキ**も「やや少」の予想です。

★ 基本的対策・・・降雨による散布遅れにならないよう早めの予防散布

二番茶摘採後は「やぶきた」園では輪斑病の防除が必要です。摘採または整枝直後に防除しますが、**ストロベリ**系薬剤（Q01剤）の耐性菌が発生している地域では他系統の薬剤に替え、耐性菌未発生地域も使用回数は年1回に抑制します。ハマキムシ類防除を第2世代にハマキ天敵で行う場合は発蛾最盛日（フェロモントラップ）の9～15日後に散布します。

三番茶芽生育期の炭疽病・チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ・チャノホリガなどの防除は同時防除が効率的で、萌芽から1葉期に摘採7～10日前に使用出来る薬剤で防除します。チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマだけを防除する場合は早めの萌芽期頃の防除でもよいです。

★ 輪斑病・・・「並」

摘採・整枝作業で感染するので刈番茶摘採や整枝後出来るだけ早く薬剤散布して、防除します。直後散布で有効な薬剤と3日後までの散布で有効な薬剤があるので注意します。

★ 炭疽病・・・「並」 黒葉腐病・・・「注意」

「やぶきた」園は防除が必要です。今後の樹勢に影響する摘採残葉を健全に守るための防除で、萌芽～1葉期が防除適期で、ダコニール1000で防除します。黒葉腐病も同時防除できます。

★ チャノミドリヒメヨコバイ・・・「やや多」 チャノキイロアザミウマ・・・「やや少」

萌芽から茶芽生育初期に加害をうけると被害が大きくなるので三・四番茶萌芽期頃に防除します。感受性が低下している薬剤があるので選択に注意し、地区の栽培暦採用薬剤で防除します。更新園は再生芽が被害を受け、樹勢回復が遅れますので、特に注意が必要です。

★ チャノホソガ・・・「並」

1葉期頃に新葉の葉裏に産卵や葉潜り幼虫が多く認められる場合は直ちに防除します。発生時期が遅れ、2～3葉期以降の産卵では被害は回避されますので防除の必要はありません。

表 二番茶後～三(四)番茶芽生育初期の病虫害防除法

病虫害 (防除時期)	防除薬剤	希釈倍数 (倍)	使用基準 使用時期・回数	使用上の留意事項
輪斑病 (二番茶刈番茶 摘採後・整枝後)	ダコニール1000	700～1000	10日前 1回	三番茶期に使用の場合は使用不可。 摘採直後散布で有効。
	フロンサイト SC	2000	14日前 1回	
	アミスター20フロアブル	2000	14日前 3回	Qo1 剤耐性菌発生園では使用を避 ける。摘採3日後までの散布で有効。
	ファンタジスタ顆粒水和剤 テフロスフロアブル	3000 1000～2000	7日前 1回 14日前 2回	
炭疽病 黒葉腐病 (三番茶萌芽～1葉期)	ダコニール1000	700～1000	10日前 1回	降雨前の予防散布が基本防除 この混用散布法は、降雨が続き、散布 が遅れた場合の緊急応用防除法です。
	ダコニール1000 + インダゴフロアブル混用	1000 8000	10日前 1回	
チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ (三番茶萌芽～1葉期)	スタークル顆粒水溶剤	2000	7日前 2回	薬剤抵抗性の発生を考慮し、同一 系統薬剤の使用は1回とする。 更新園では新芽の生育が続き、被 害を受けやすいので特に注意す る。
	テツパン液剤	1000	3日前 1回	
(四番茶萌芽～1葉期)	ダントツ水溶剤	2000～4000	7日前 1回	
	エクシレル SE	2000	7日前 1回	
ハマキムシ類 (二番茶・摘採後) (第2世代若齢幼虫期)	ファルコンフロアブル	4000～8000	7日前 2回	若齢幼虫期に散布する。 発蛾最盛期の10日後頃が散布適期。
	アフーム乳剤	1000～2000	7日前 1回	
	ハマキ天敵	1000～2000	発生初期・前日～	
チャノホソガ (チャノサカハマキ) (三番茶芽・ 萌芽～1葉期)	スタークル顆粒水溶剤	2000	7日前 2回	1葉期頃が散布の適期である。 新葉の葉裏への産卵・幼虫の葉潜 り状況を確認し、防除する。 脱皮阻害 IGR 系剤は地域により 薬剤感受性が低下しているの で地区栽培暦採用薬剤で防除する。
	サムコフロアブル10	2000～4000	3日前 1回	
	【IGR系】			
	カスケード乳剤	4000	7日前 2回	
	ノモルト乳剤	2000～4000	7日前 1回	
ファルコンフロアブル	4000～8000	7日前 2回		

☆ 隣接作物や摘採の終わっていない茶園への薬剤飛散がないように留意しましょう。